

日銀金融政策決定会合（2025年10月）

政策金利据え置きを決定、経済・物価見通しもほぼ変わらず

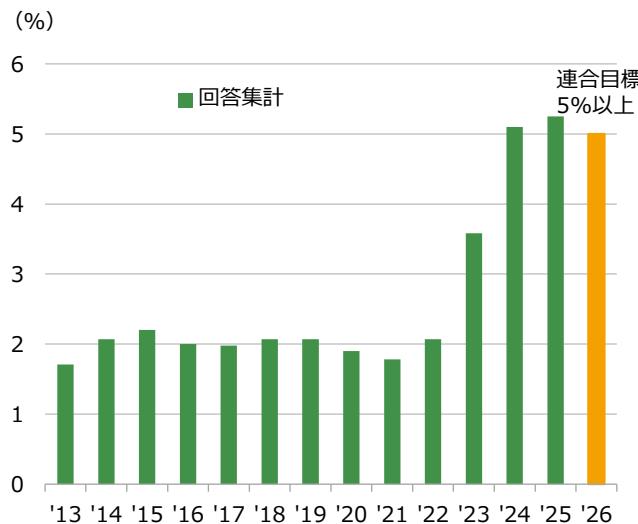
2025年10月31日

米関税リスクを注視、賃金モメンタム次第で年内利上げも

日本銀行（以下、日銀）は10月29日～30日に金融政策決定会合を開催し、市場予想通り、政策金利の無担保コールレート・オーバーナイト物を0.50%で据え置くことを決定しました。今回注目された展望レポートの経済・物価見通しは、7月会合で公表された内容から大きな変更はなく、2025年度の経済見通しが足元のGDP統計を反映して小幅に上方修正されたほか、2026年度の消費者物価指数（除く生鮮食品・エネルギー）がわずかに引き上げられた程度です。

先行きについて、植田総裁は「経済・物価の見通しが実現していくとすれば、経済・物価情勢の改善に応じて、引き続き政策金利を引き上げ、金融緩和の度合いを調整していく」と従来の見解を維持しました。経済・物価情勢の改善を判断するには、米関税政策を受けた世界（特に米国）経済の動向、我が国企業の収益および賃金・価格設定行動などへの影響を点検する必要があります。米関税政策が国内経済・物価に与える影響を巡る不確実性は依然として高く、構造的な人手不足を背景に積極化した企業の賃金・価格設定行動に負の影響を及ぼす可能性があります。このため植田総裁は、緩和度合いの調整にあたり「もう少しデータを確認したい」と述べる一方「来年の春闘の初動のモメンタム」がどうなるのかに注目しているとも言及しました。2026年春闘に向けた労使の対応方針や日銀本支店でのヒアリング結果等を踏まえ、賃金モメンタムの維持が確認できれば、早ければ年内にも利上げが行われる可能性があります。

春闘の平均賃上げ率の推移



※回答集計は連合の最終集計値、2026年は連合目標
(出所) 日本労働組合総連合会

日銀政策委員のGDP・物価見通し

(前年度比、%)	実質GDP	消費者物価指数	
		(除く生鮮食品)	(除く生鮮食品・エネルギー)
2025年度	+0.6～+0.8 <+0.7>	+2.7～+2.9 <+2.7>	+2.8～+3.0 <+2.8>
(7月時点)	+0.5～+0.7 <+0.6>	+2.7～+2.8 <+2.7>	+2.8～+3.0 <+2.8>
2026年度	+0.6～+0.8 <+0.7>	+1.6～+2.0 <+1.8>	+1.8～+2.2 <+2.0>
(7月時点)	+0.7～+0.9 <+0.7>	+1.6～+2.0 <+1.8>	+1.7～+2.1 <+1.9>
2027年度	+0.7～+1.1 <+1.0>	+1.8～+2.0 <+2.0>	+2.0～+2.2 <+2.0>
(7月時点)	+0.9～+1.0 <+1.0>	+1.8～+2.0 <+2.0>	+2.0～+2.1 <+2.0>

※2025年10月時点、下段の<>は中央値

(出所) 日本銀行

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指標・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management